

## 海外安全対策情報（令和4年度第2四半期分）

### 1. 社会・治安情勢

イラン国内における社会情勢については、本年9月16日以降、当地においてイラン当局にヘジャブ指導を受けた女性が死亡したことを受けて、イラン各地で抗議行動が発生しています。特に9月19日以降はテヘラン市ほかイラン各都市の主要道路、広場等において抗議行動が散発的に発生し、複数の死傷者が発生しているほか、イラン当局のインターネット規制によるものとされる通信障害がイラン全土で継続的に発生しております。なお、イラン当局は今回の抗議活動では外国勢力が関与していると主張しており、当地では欧州出身者等の外国人の拘束事案が発生しています。

イラン国内におけるテロ・襲撃事件については、平成29年6月7日にテヘラン市内の国会事務所建物内及びイマーム・ホメイニ廟周辺において、複数の武装グループによる銃撃や自爆攻撃により18名が死亡、約50名が負傷する事件が発生しました。また、平成30年9月22日には、南西部フーズスタン州アフヴァーズ市において、軍事パレードに対する銃撃事件（25名が死亡、60名以上が負傷）が発生しました。その後、南東部、南西部含むイランの南部地域においては、襲撃事案等が断続的に発生し、同年12月6日には南東部シスタン・バルチスタン州チャーバハール市の警察本部に対する自動車爆弾攻撃が発生（治安機関員2名が死亡）、平成31年2月13日には同州ハーシュ市～ザヘダン市間の道路において、革命ガードのバスに対する自爆攻撃（車両利用）が発生（革命ガード兵27名死亡）するなどしました。武装組織・テロ組織と治安機関の戦闘が散発している北西部及び西部を含め、今後の同地域におけるテロ・グループの動向を引き続き注視する必要があります。テヘランにおいても、令和2年8月7日には、テヘラン市パスダラン地区における銃撃事件が報じられ、同年11月27日には、テヘラン東方約60kmの距離に位置するダマーヴァンド市付近で、ファフリザーデ国防軍需省研究刷新機構長官の殺害事件が発生したほか、本年5月22日にはテヘラン市東部において革命ガード大佐が殺害される事件が発生しました。

また、依然として、殺人、強盗、窃盗、性犯罪等の一般犯罪の発生もイラン国内の広い範囲で多々報じられていることから、イラン国内における行動については、十分に注意が必要です。

さらに、最近のイランをめぐる国際情勢及び新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況についても十分注意が必要です。

安全関連情報等については、当館から必要に応じて注意喚起情報を発出しておりますが、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページを御確認いただくなど、自らの安全確保のための情報収集に心掛けてください。

### 2. 一般犯罪の傾向

#### (1) 概要

イランでは、犯罪発生件数に関する統計が公表されていませんが、各種報道によると、日常的に一般犯罪が発生しているものと考えられます。邦人に対する主な被害として、強盗（偽警察官による強盗、けん銃及び刃物を使用した強盗等）、窃盗（ひ

ったくり、スリ、空き巣、忍込み等)等の事件が発生しております。また、観光客の少ない地方都市において、外国人女性の一人旅を狙った性犯罪が発生していることから、地方都市においては、女性の単独行動は極力控えるなどの注意が必要です。

最近の一般犯罪に関する報道は以下のとおりです。

- 7月3日付の報道によると、時期不明なるも、テヘラン市内においてニセ警官が逮捕された。逮捕された中年男性は「小さい頃から軍人に憧れていた」と供述し、イラン警察高官の制服を着用し、実銃を携行してテヘラン市内を彷徨っていた。
- 7月3日付の報道によると、時期不明なるも、テヘラン市内において露天商の若者2人が店の場所を巡って口論となり、一方がもう一人の若者をナイフで刺殺する事案が発生した。
- 7月25日付の報道によると、7月中旬、テヘラン市内東部のラヴィザン森林公園において、警察が木に縛り付けられた男性を保護した。男性は男5人組に仲間の携帯電話を盗んだと因縁と付けられて拉致され、男らは男性を森林公園内の木に縛り付けて暴行を加え、金銭を要求していたところ、警察が近づいてきたため逃走した。警察の捜査によると、犯人らは金銭を脅し取るために同様の手口を繰り返しており、複数の被害者がいるとのことであった。
- 8月11日付の報道によると、8月上旬、テヘラン市内において裕福な家庭の17歳の青年が4人組の男に身代金目的で誘拐される事案が発生した。犯人らは青年の家族に約1億円の身代金を要求したが、青年は自力で脱出し、家族の通報を受けた警察により犯人らは全員逮捕された。
- 8月14日付の報道によると、8月13日、テヘラン市西部のショッピングモールで警察と窃盗犯との間で銃撃戦が発生し、窃盗犯が逮捕された。犯人は下見のためショッピングモール内の宝石店の写真を撮っていたところ、不審に思ったタクシードライバーが、犯人が銃を隠し持っていることに気がつき、警察に通報、通報を受けた警察官がショッピングモールから出てきた犯人と銃撃戦の後に逮捕した。
- 9月7日付の報道によると、9月4日、テヘラン市内中心部において強盗が駆けつけた警察官を刺殺する事案が発生した。強盗の2人組が就寝中の女性宅に侵入し、女性を拘束していたところ、いずれかから通報を受けた警察官2人が女性宅に突入し、犯人らともみ合いになった。その中で強盗犯の内1人が警察官の一人をナイフで刺し、刺された警察官は殉職した。

警察官を刺した強盗犯については、その後の捜査により窃盗で7～8回これまで逮捕されてきた薬物中毒者であることが判明した。

- 9月7日付の報道によると、9月5日、テヘラン市北西部において200件の余罪がある窃盗犯のカップルが警察に逮捕された。9月5日、警察官がテヘラン市内をパトロール中に白い「プライド」の車両を運転する不審なカップルを発見し、注意深く監視していたところ、とある駐車車両から窃盗を行う状況を確認したため警察官らがカップルにその場で止まるよう警告したところ、カップルらは車で逃走した。警察官らはカップルの運転する車のタイヤを射撃してパンクさせ、

カップルらを逮捕した。その後の警察の捜査により、犯人らは車部品の窃盗を生業としており、テヘラン市内北部及び北西部を中心に200件近くの余罪があることが判明した。

- 9月8日付の報道によると、9月5日、テヘラン市中心部のモスクにおいて祖母と共に礼拝に訪れていた6歳の娘が若い女の誘拐犯に誘拐される事案が発生した。誘拐犯は祖母に娘に無料の食事を与えるために連れて行くと言って娘を連れ去り、娘が持っていた祖母の鞆に入っていた祖母の携帯電話から娘の母親に架電し、「5億リアル（日本円で約24万円）を支払わなければ、娘を殺す」と脅迫した。警察はその後、誘拐犯と娘がいた公園を包囲したところ、誘拐犯は娘をおいて逃走し、娘は無事保護された。
  - 9月11日付の報道によると、9月10日、イマーム・ホメイニー国際空港近くのガソリンスタンドでタクシードライバーが射殺体が発見された。警察の捜査によると、犯人はタクシーで待機していた被害者を通り過ぎ様に銃撃して逃走したとのことであった。
  - 9月13日付の報道によると、9月10日、テヘラン市内で複数の強盗を行い逮捕された男に対して死刑判決が下された。犯人はテヘラン市内の渋滞中の高速道路において、主に女性ドライバーを標的としてナイフで携帯電話を脅し取っていた。犯人の裁判では約40件の余罪が審議されている。
  - 9月14日付の報道によると、9月12日、テヘラン市内において女性が面識のない男に酸を浴びせられる事件が発生した。被害に遭った女性は、スポーツジムの帰りにタクシーを待っていたところ、男がバイクで近づいてきて液体をかけてきたと説明し、警察は直後、別の病院で酸でやけどした男が犯人であると特定し逮捕した。犯人は覚醒剤を使用したと述べているほか、女性に酸を浴びせた理由について、「自分に酸をかけるつもりだったが誤って女性にかけてしまった」と供述した。
  - 9月19日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、テヘラン市西部で女性を背後から襲って首を絞め、鞆を盗み取った男2人組が逮捕された。警察によると、男らはこれまで同様の手口で少なくとも5件の犯行を繰り返していた。
- (2) 邦人被害事案
- 第2四半期中における邦人被害の報告は以下のとおりです。
- 9月5日、テヘラン市内を旅行中の邦人がタクシーで移動中に携帯電話を使用していたところ、横を通過したバイクの運転手が窓から手を入れて、邦人の携帯電話を窃取して逃走した。
  - 9月25日、在留邦人がテヘラン市内において徒歩にて帰宅中、近づいてきたバイクが邦人のリュックサックのポケット内に入っていた携帯電話を通り過ぎ様に窃取して逃走した。

### 3. テロ事件等発生状況

#### (1) テヘラン市内

テヘラン市内では、平成29年6月7日に発生したI S I Lによるテロ以降、テ

ロ関連事件の発生は報じられておりませんが、令和2年度第4四半期中（令和3年2月24日）には、テヘラン市南部の高速道路の料金所において、リモート式自爆ベストを用いてテロを実行しようとした男が逮捕された旨報じられたほか、5月22日には、テヘラン市東部において革命ガード大佐がバイクに乗った2人組に銃撃され、死亡する事案が発生しています。

(2) 北西部及び西部イラク国境付近

北西部及び西部イラク国境地域では、クルド人独立国家の建設を目指す「PJAK（クルド自由生活党）」等による治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下のテロ事件等が報じられました。

- 7月13日付の報道によると、情報省は革命ガード陸軍の協力の下、西アゼルバイジャン州において10名のテロリストを拘束し、高度な通信装置ほか多様な小火器、グレネードランチャー、グレネード等の軍用装備品を押収したと発表した。
- 7月20日付の報道によると、クルディスタン州国境警備隊は7月19日、同州のイラク国境地帯2カ所においてテロ組織が交戦し、2名の国境警備隊員が死亡したと発表した。
- 9月28日付の報道によると、国境警備隊は東アゼルバイジャン州において7名のテロリストを拘束したと発表した。

(3) 南東部パキスタン国境付近

南東部パキスタン国境地域には、「ジェイシュ・アルアドル」、「アンサールル・フォルガン」と称するバルーチ系スンニ派反政府組織等が存在し、同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下のテロ事件等が報じられました。

- 8月10日付の報道によると、情報省はシスタン・バルチスタン州において当地で8月7日から8日にかけて行われた第3代イマーム・ホセインの殉教を悼むシーア派宗教行事「アーシューラー」を標的として自爆テロを企図していた女性テロリストを拘束したと発表した。
- 9月30日付及び10月1日付の報道によると、9月30日シスタン・バルチスタン州州都ザヘダン市内の複数の警察署が襲撃され、革命ガード隊員及び民兵組織バンジの隊員が計3名死亡したほか、32名が負傷した。

(4) 南西部

南西部には、「アル・アフワズ」と称するアラブ系反政府組織等が存在し、過去同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが発生していますが、第2四半期中は、同組織等によるテロ事案の報道には接しておりません。

(5) その他の地域

上記地域以外におけるテロ関連事件としては、以下の事件が報じられました。

- 8月4日付の報道によると、情報省はシーア派宗教行事「アーシューラー」に際し、宗教行事に対するテロ攻撃を計画していたテロリスト10名を逮捕したと発表した。

#### 4. 抗議行動発生状況

当地では、ヘジャブ指導を受けた女性の死亡に対する抗議活動が9月16日以降発生しており、特に9月19日以降はテヘラン市ほかイラン各都市の主要道路・広場・大学において、抗議活動が散発的に発生し、複数の死傷者及び拘束者が発生しております。またイラン全土で当局のインターネット規制によるものとされる通信障害も発生しています。また、イラン当局は今回の抗議活動では外国勢力が関与していると主張しており、当地では欧州出身者等の外国人の拘束事案が発生しています。

今次抗議活動は長期化の様相を見せており、当地滞在の際は不測の事態に巻き込まれないよう当面の間、幅広く最新の情報の入手に努めつつ行動してください。また、抗議に参加する意図はなくとも、抗議活動の現場においてデモ隊と治安当局の衝突等に巻き込まれることにより、暴行を受けたり、身体を拘束されたりする等不測の事態に遭遇するおそれがあるため、抗議活動が行われている場所には近づかない、写真や動画等の撮影はしない、周辺状況を踏まえて早めの帰宅を行うなど、自らの安全確保に努めることが必要です。

## 5. 誘拐・脅迫事件発生情報

### (1) 誘拐事件

第2四半期中、以下のとおり外国人を標的とした誘拐事件が発生しております。

- 7月23日付の報道によると、テヘラン市内で在留フランス人が身代金等の目的で拉致される事案が発生し、警察が犯人を逮捕し、被害者を保護した。犯人は警察の取り調べを通じて、被害者とはフランスで知り合い、被害者がペルシャ語を話せないことを理由に外貨の窃取と家族からの身代金授受の目的でフランス人を拉致したことを自供した。

### (2) 脅迫事件

第2四半期中、外国人が脅迫事件の対象となったとの情報はありません。

## 6. 日本企業の安全に関わる諸問題

現時点では、当地における日本企業及び外国企業を対象とした脅威は特段見られません。ただし、上述のとおり、現在当地では、ヘジャブ指導を受けた女性の死亡に対する抗議活動が9月16日以降発生しており、抗議行動関連動向には引き続き注意が必要です。冒頭に記載したとおり、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページをご確認いただくなどして、自らの安全確保のための情報収集を心掛けてください。